

A 会場

天然物化学・有機合成化学

座長 常盤野哲生（秋田県大・生資科）

A01 9:00 フグ由来のテトロドトキシン関連化合物の合成
○杉本敬太¹、上山 望¹、長 由扶子¹、此木敬一¹、西川俊夫²、山下まり¹
(¹東北大院農、²名大院生命農)

A02 9:12 免疫抑制及び抗糖尿病活性を有する NFAT-133 の全合成研究
○佐藤 光、田口優佳、小倉由資、桑原重文（東北大・院農）

A03 9:24 Ktedonobisether の幾何異性解明研究
○齋藤克哉、桑原重文、榎本 賢（東北大・院農）

座長 今野博行（山形大・院理工）

A04 9:36 有機合成化学的手法を用いた Glyphaeaside C の立体化学の決定に関する研究
○阿部泰之、小倉由資、桑原重文（東北大院農・生物産業創成）

A05 9:48 三重結合を有するオキシリピン型天然物の全合成と構造訂正
○添田博樹、十和田 諒、小倉由資、桑原重文（東北大院農・生物産業創成）

A06 10:00 Cyclohelminthol Y の構造
○田中静也、橋本 勝（弘前大・農生）

A07 10:12 12-deoxyroridin 類の単離
○松本愛美、殿内暁夫、前多隼人、橋本 勝（弘前大・農生）

座長 橋本 勝（弘前大・農生）

A08 10:24 海藻より分離した糸状菌 *Paraconiothyrium* sp. SW-B 株が生産する物質について
○鈴木拓馬¹、小関卓也¹、大野美紗²、木村賢一²、塩野義人¹
(¹山形大・農、²岩手大・農)

- A09 10:36 糸状菌 *Pseudocosmospora* sp. Bm-1-1 株が生産する二次代謝産物について
○中村智紀、鈴木拓馬、小関卓也、塩野義人（山形大・農）
- A10 10:48 Sesquiterpene-epoxycyclohexenone conjugates from *Nectria pseudotrichia*
○Nanang Rudianto Arief^{1,2}, Tatsuya Ashitani², Keitaro Tawaraya², Tetsuya Murayama², Takuya Koseki², Narandulam Usukhbayar¹, Ken-ichi Kimura¹, Yoshihito Shiono^{1,2} (¹UGAS, Iwate Univ., ²Fac. of Agri., Yamagata Univ.)
- A11 11:00 ヒトキネシン-14(HSET) 過剰発現酵母を用いた抗がん剤のスクリーニング
○栗澤尚瑛¹、越野広雪²、湯川格史³、登田 隆³、大野美紗¹、木村賢一¹
(¹岩手大院・農、²理研・CSRS、³広島大院・先端物質)
- 座長 塩野義人（山形大・農）
- A12 11:12 山扁豆（サンペズ）に含まれる α -グルコシダーゼ阻害物質の探索
○森谷歩香¹、浮田さゆり¹、小山愛美¹、吉澤結子²、常盤野哲生²
(¹秋田県大院・生資科、²秋田県大院・生資科)
- A13 11:24 オボアルブミンペプチドの抗菌活性に関する研究
○譚 奥、矢野成和、今野博行（山形大・院理工）
- A14 11:36 新しい Fmoc 化剤 Fmoc-OPhth の開発
○今野博行、吉野 諒、東海林由憲（山形大・院理工）
- A15 11:48 Polyoxometalate が有する cysteine 検出能の検討及びジスルフィド結合形成反応への展開
○休石悠人、矢野成和、今野博行（山形大・院理工）

B 会場

食品科学・植物科学

座長 秋山美展 (秋田県大・生資科)

- B01 9:00 微生物由来 1-デオキシノジリマイシンの機能性及び吸収排泄動態の評価
○高須蒼生¹、山岸賢治²、小野瀬晋司¹、伊藤隼哉¹、池田亮一³、樋口央紀⁴、木村俊之²、宮澤陽夫^{1,5}、仲川清隆¹ (1 東北大・院農、² 農研機構・食品研究部門、³ 旭松食品 (株)、⁴ (株) 機能性植物研究所、⁵ 東北大・NICHe)
- B02 9:12 ルテオリンの吸収代謝：アグリコン/配糖体および動物種による違い
○早坂夏実¹、菰田俊一²、毛利 哲²、津志田藤二郎²、宮澤陽夫^{1,3}、仲川清隆¹ (1 東北大・院農、² 宮城大・食産業、³ 東北大・NICHe)
- B03 9:24 低亜鉛食給餌ラットにおける食塩嗜好と脳脊髄液中亜鉛濃度の変化
○袖山尚紘¹、後藤知子^{1,2}、白川 仁¹、駒井三千夫¹ (1 東北大・院農、² 宮城学院女子大・生活科学)

座長 藤田直子 (秋田県大・生資科)

- B04 9:36 固形食品に対する咀嚼の速度が味強度に及ぼす影響
○竹澤夏菜¹、秋山美展²、石川匡子² (1 秋田県大院・生資科、² 秋田県大・生資科)
- B05 9:48 塩とうま味および甘味アミノ酸が味強度に与える相互作用
○山崎桃子¹、石川匡子²、高橋 徹³、塚本研一³ (1 秋田県大院・生資科、² 秋田県大、³ 秋田県総食研)
- B06 10:00 イネ胚乳由来新規黄色色素 oryzamutaic acids の生合成メカニズムの解明
○内形 真¹、上田幸恵¹、下天摩 舞¹、中野 洋²、坂元君年¹、橋本 勝¹、濱田茂樹¹ (1 弘前大・農生、² 農研機構・九沖農研)
- B07 10:12 ペクチン分子が誘導するイネの根の伸長と病傷害応答
○石橋 諒、寺澤太志、佐々木里穂、川崎通夫、濱田茂樹 (弘前大・農生)

座長 水野幸一（秋田県大・生資科）

B08 10:24 イネ傷害葉におけるイソペンチルアミンの蓄積

○網干貴子（山形大・農）

B09 10:36 イネ籾殻シリカ形成に関与するタンパク質の探索

○安孫子 滯、山口明莉、野下浩二、岡野桂樹、吉澤結子、尾崎紀昭
（秋田県大・生資科）

B10 10:48 スターチシンターゼ (SS)IIa 欠損変異体 EM204 における変異箇所検出と
胚乳澱粉特性

○三浦聡子¹、クロフツ尚子¹、齋藤雄飛²、保坂優子¹、追留那緒子¹、渡辺
紀之²、熊丸敏博³、藤田直子¹（¹秋田県大・生資科、²亀田製菓（株）お米
研究所、³九大院・農）

B11 11:00 発熱植物ザゼンソウの熱産生に関わるミトコンドリア型チオレドキシンの
同定

○梅川 結、伊藤菊一（岩手大・農）

B12 11:12 オオタバコガ幼虫に対するトマト未熟果実の摂食刺激物質

○眞生田聖也、阿部 誠、野下浩二、田母神 繁（秋田県大・生資科）

C 会場

微生物学・分子生物学・生化学

座長 牟田口祐太（秋田県大・生資科）

C01 9:00 *Lysobacter enzymogenes* MK9-1 が生成するキチナーゼのクローニング
○菅野春樹、高橋譲、矢野成和（山形大・工）

C02 9:12 *Ochrobactrum* sp. AIU 033 由来アルコール酸化酵素のグリコール酸酸化活性向上に対するアミノ酸置換の影響
○松村健児、下飯 仁、山田美和（岩手大院・総合科学）

C03 9:24 腸内細菌科の TCA サイクル mRNA による中心代謝経路の転写後調節
○曾根泰裕、宮腰昌利（秋田県大・生資科）

座長 宮腰昌利（秋田県大・生資科）

C04 9:36 葉緑体チラコイド膜に存在する新奇拡散チャネル TPOR
○児島征司^{1,2}、栃木佐枝子²、高橋秀幸¹（¹東北大・院生命、²東北大・学際研）

C05 9:48 新規シームレス連結法による α -ポリ-L-リジン cDNA の構築と生産
○熊谷将太、横田早希、沼澤亜紀、伊藤孝幸、後藤 猛（秋田大院・理工）

C06 10:00 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来ルチノシダーゼ AoRut の酵素学的諸性質
○川崎真由、石川真衣、塩野義人、小関卓也（山形大・農）

座長 後藤 猛（秋田大院・理工）

C07 10:12 基幹化合物生産の効率化に向けた Protocatechuate decarboxylase 反応機構の解明
○栗本祐樹、尾形拓哉、園木和典（弘前大院・農生）

C08 10:24 リグニンを原料とした基幹化合物“*cis,cis*-ムコン酸”のバイオ生産
○杉田晴佳^{1,3}、菊地晃弘^{1,3}、高橋健司^{2,3}、上村直史^{2,3}、政井英司^{2,3}、園木和典^{1,3}（¹弘前大・農生、²長岡技大・工、³JST-ALCA）

- C09 10:36 草本系栽培残渣を原料とした有用物質生産と土壌還元モデルの検討
○東 勇太¹、菊地晟弘¹、顔 昊¹、梶田真也²、園木和典¹ (1 弘前大院・農生、² 東農工大院・BASE)
- C10 10:48 クサギカメムシにおける不飽和アルデヒドと脂肪酸の生合成
○野下浩二¹、藤盛春奈^{1,2}、田母神繁¹ (1 秋田県大・生資科、² 東大院・新領域)
- 座長 田母神 繁 (秋田県大・生資科)
- C11 11:00 ヒドロキシ脂肪酸 ricinoleic acid のグルコース産生抑制作用の解析
○吉田 潤¹、伊藤芳明²、木村賢一² (1 岩手医大・教養教育セ・化学、² 岩手大・農)
- C12 11:12 ミトコンドリア m-カルパイン阻害ペプチドの細胞障害機構
○大河内裕史¹、尾崎 拓²、宮崎雅雄¹、山下哲郎¹ (1 岩手大・院農、² 岩手大・理工)
- C13 11:24 プラズマローゲン分解物や合成中間体の分析
○乙木百合香¹・加藤俊治²・宮澤陽夫^{1,3}・仲川清隆¹ (1 東北大・院農、² 東海大・医、³ 東北大・NICHe)
- C14 11:36 乾癬モデルマウスでは 皮膚中プラズマローゲンとノンヒドロキシセラミドが増加する
○渡邊菜々¹、畑堀 翔²、鈴木卓弥²、西向めぐみ¹ (1 岩手大院・総合科学、² 広大院・生物圏)
- C15 11:48 アトピー性皮膚炎モデルにおける骨格筋遺伝子発現の変動およびオキアミン脂質摂取による影響
○杉本健太¹、山崎裕也²、杉山 梢²、小池誠治²、西向めぐみ¹ (1 岩手大・総合科学、² (株) ADEKA)